

エリンギとヤマブシタケの腸管細胞に対する抗炎症作用



エリンギとヤマブシタケが、腸の炎症性疾患を予防する可能性を示す研究結果が、当社きのご総合研究所で得られました。

腸管細胞の働きと炎症のしくみ

腸での炎症性疾患の発症イメージ

腸内では、粘液や腸管細胞が病原菌などの異物の侵入を防いでいますが、粘液層が破綻して異物(LPS*など)が過剰に作用すると、腸管細胞から炎症促進性タンパク質である**インターロイキン8**(以下**IL-8**)が血液中に分泌されます。

IL-8は好中球などの免疫細胞を呼び寄せて異物を排除しようとします(炎症反応)が、過剰に集まった好中球は正常な腸管細胞を傷害してしまいます。このような過剰な炎症反応を抑制することで、腸での炎症性疾患を予防できると考えられます。

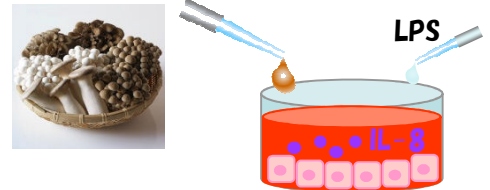
腸での炎症による主な症状
腹痛、下痢、腸炎症状の進展 など

日常生活への支障、大腸がんのリスクファクター

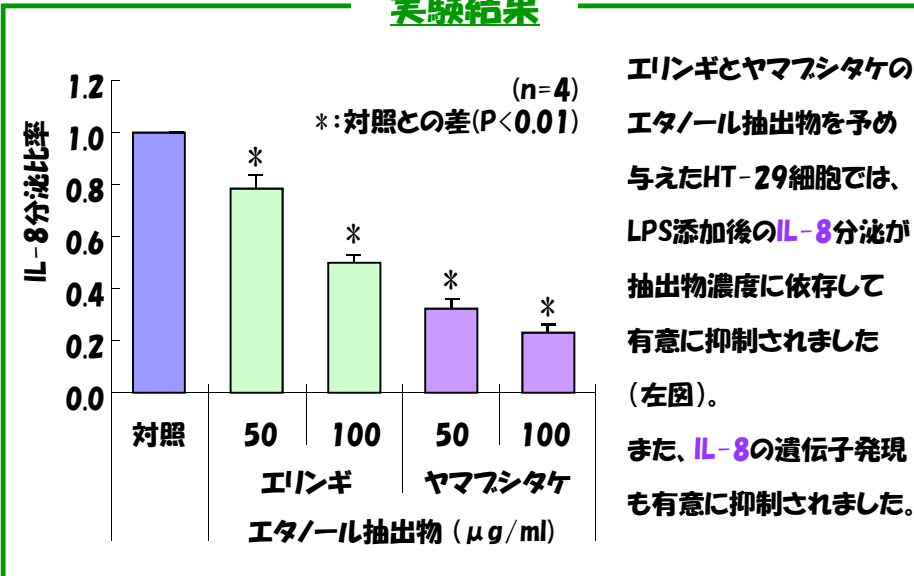
※LPS(リポポリサッカライド)は、細菌の細胞壁成分で、免疫応答作用を示す物質です。

実験方法

各きのこのエタノール抽出成分を実験に使用しました。
ヒト由来腸管細胞株(HT-29)に各抽出成分を加えて30分培養後、LPSを加えて炎症反応を引き起こしました。
培養24時間後に培養液中の**IL-8**分泌量を測定しました。



実験結果



腸での炎症抑制イメージ



エリンギおよびヤマブシタケは、過剰な炎症刺激による腸管細胞からの**IL-8**分泌を抑制することで、好中球の過剰な炎症反応を防ぐと考えられます。

以上の結果から、エリンギとヤマブシタケは、腸の炎症性疾患を予防する効果が期待できます。

上記の研究結果は、第67回日本栄養・食糧学会大会(2013年)にて発表されました。



ホクト株式会社 本社〒381-8533 長野市南堀138-1 TEL:026-243-3111(代表)

※無断での複製・転載・使用を固くお断り致します。